

第2回大正中学校・大正小学校

意見交換会の報告

PTA会長 石口嘉美

晩秋の候、学校関係者の皆様、PTA 会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、学校教育に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度 11 月 19 日「第 2 回 大正中学校、大正小学校 意見交換会」を開催させていただきました。参加いただきました中学校 PTA 役員の皆様ご苦勞様でした。また、小学校 PTA 会長並びに役員の皆様、大変ご苦勞様でした。

今回第 2 回目につきましては大正小学校で開催させていただきました。今回は前回に出た意見や疑問・質問に対し、小学校・中学校の先生も交え、解決策を模索する会となりました。小中より校長先生、教頭先生にもご出席していただき、闊達な意見交換会となりました。

前回出た意見を順に意見交換をしていく中で、参加者の関心は、やはり子ども達の教育についてです。少子高齢化が進む中で、生徒の数も少なくなってきました。特に小学校においては 1 人の教員が全科目を教えます。授業の準備には時間がかかりますし、学年によっては 1 クラスしかないため、他の教員の教材を参考にすることもできないという環境にあることがわかりました。また、放課後の時間は家庭訪問などに時間を取られ、教材の作成にも影響が出かねない状況にあることも見えてきました。

そのようなことから、教員の負担を減らし、学習指導への時間をつくる手立てはないかについて皆様と共に考えました。

まず、先生方の学校教育現場において充実した授業ができていますのか？との観点から、教員の負担を減らすために、「加配」をお願いするという方法について、意見交換を行いました。まず、「加配は可能か、不可能か」について、小中の先生方に今までの経験をもとに意見を伺ったところ、現在も加配は頂いているようですが、小学校については昨年よりも 1 名加配教員の数が減っていることがわかりました。また、中学校においては加配の教員も昨年同様に配置していただけだとのこと。結果、やってみなければわからないが教育現場の現状を訴え、地域も共に声を上げたならば加配をいただく方法はあるとの結論に至りました。

他にも義務教育終了後の進路について意見交換を行いました。

現在小学校と中学校とでは、教員同士の交流はあるものの、子どもを中心とした教育の目線での交流はありません。そこで、小学校と中学校の 9 年間のスパンで指導を行うことについて意見交換を行いました。意見交換を通して分かったことは、小学校には送り出す側との意識があることがわかりました。そして、中学校は高校へ入れるとの意識があることがわかりました。この議論を通し、先生方も真摯に保護者の意見や思いに耳を傾けてくださいました。

また向本校長からは、

「中学教師として高校へ入れるだけでなく、卒業するまで高校をやめない指導を心掛けたい」

そして「学校で勉強しない子が、家で勉強するはずがない。学校で勉強の面白さを教える。それがあってこそ、家庭で勉強する。」と熱く語っていただきました。

次に、家庭での躰について子ども達の反抗期における接し方、子ども達の学力の向上などについても意見交換させていただきました。反抗期については「学校では言えないことを家で吐き出す場合もある」「反抗期は成長の過程」「めげずに言い聞かすことが肝心と思う」「頭を打たないと本人はわからない」「挨拶、目を見てしゃべる、無視をしない、これができていれば良いのでは」などなど参考になる意見をたくさんいただきました。

子どもの学力の向上については、小中の先生方の取組について紹介させていただきました。中学校の取組として【土曜塾】【合格 Night work】【中学生友の会】【みんなの授業研】を紹介させていただきました。小学校の先生方も授業の工夫や教員への指導について説明していただき、現場レベルでの努力と取組について試行錯誤されていることがうかがえました。

私の感想としては、小中共に先生方は大変ご苦勞されていて、立派な取組もされています。しかし、教育への取組や子ども達への接し方について、答えは 1 つではないと思います。10 人の子どもがいれば 10 通りの思いがあり、10 通りの意見があります。全ての意見や思いにこたえることはできないかもしれませんが、全ての生徒と向き合い、全ての生徒が平等に参加できる取組を行っていただきたいと思います。

中学校の【土曜塾】【合格 Night work】【中学生友の会】【みんなの授業研】この取組については、計算のうえにできたものではありません。参加は自由ですが、全ての生徒が参加できるようにと保護者と学校がガチンコで考え、取り組んできた結果、出来上がってきたものです。「誰かが何とかしてくれる」ではなく、何とかするのは我々である。その為に「何ができるか」を、皆さんで考えていく必要があると感じました。

現在、大正中学においてはコミュニティースクールの認定を受け、地域の方々と共に教育現場を盛り上げていく取組を行っています。また、「三本の竹事業」においても、「学校」「家庭」「地域」で、子ども達を「大きな学力の樹」に育てようとの取組も行っています。その為には、小学校の教育現場の充実無くして「大きな学力の樹」に育てることは不可能と考えます。今後も小学校、中学校の PTA が協力し、全力でこの問題に取り組んでいきたいと思っております。

また、教員と生徒との上下関係についての意見交換においては、教員と生徒がため口で話することは決して悪いわけではなく、お互いの信頼関係の上に成り立っていることがわかりました。

「先生との距離が近いことは、大中の良さ！一人はみんなの為に、みんなは一人の為に！」との意見を小学校の保護者より言っていただきました。この方も大正小、大正中の卒業生だそうです。大正魂が脈々と受け継がれていることに感動を覚えました。

皆様、率直な意見、保護者の生の声を聴かせていただき、ありがとうございました。この意見交換会が、無駄にならないように、今後も小学校 PTA 会長の武村さんと連携を取り、教育現場に反映されるように取り組んでまいります。

第 3 回 大正中学校・大正小学校 意見交換会は 12 月 17 日 19:00 より大正中学校図書室にて開催予定です。次回は第 2 回目の続きから皆様方と意見交換をさせて頂きたいと思っております。

PTA 役員の皆様、今後もできる限り出席していただき、闊達な意見交換ができますようお願いいたします。